

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 東船橋第1教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
お子様の成功体験や自己肯定感を高めることが出来ている点	現状では一日のスケジュールや、集団活動、SST、やることリストなどにより成功体験が詰めるような機会を提供できるよう努めております。 帰りの会では毎日発表の時間を設けて、成功体験が詰める機会が増えるような場を設定しております。	次のステップでは、体験学習や、農業体験といった普段なかなか行えないようなプログラムも予定し、お子様の将来に繋がる体験を提供できるように努めて参ります。
外出プログラムを多く実施できている点	お子様の興味がありそうなプログラムを予想したり、調べたりして設定させて頂いております。 祝日や長期休みには、平日では行えないイベントを数多く設定できるように努めております。	引き続き、買い物学習や季節ならではの行事や体験の活動を準備して参ります。 やって欲しい、やってみたいプログラムのアンケートを実施し、お子様、保護者に喜んでいただけるような支援をできるように検討をしていきます。
お友達との関わりや自分で思考する機会を多く設けられている点	SSTの時間において、お友達との関わり方や相手の受け取り方を考える時間を設定させて頂いております。 教室のルールをもとに、自身の行動がルールに適していたのかどうかを考えられるような声掛けを意識しております。	同じ学校のお友達と仲良くする機会が多い場合も見られるため、グループワークの編成やチーム編成を工夫して、お子様のコミュニティが広がるような工夫を行って参ります。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
教室が狭く、児童同士の接触による怪我、トラブルが懸念される点	お子様の人数や成長段階の変化に対し、活動スペースの確保や使い分けが十分に行えていないことが要因と考えられます。	今後は活動内容や発達段階に応じて空間を柔軟に使い分けられるよう、床にテープで目印を作成することや配置変更を取り入れていきます。また、時間帯ごとに活動を分けることで混雑を緩和し、落ち着いて過ごせる環境づくりを行います。さらに職員間で情報共有を強化し、一人ひとりに合った活動が行えるよう工夫してまいります。
外部との連携／保護者への参画機会が少ない点	日々の支援を優先する中で、外部機関との情報交換や保護者の皆様にご参加いただく機会づくりが十分に行えず、連携や関わりを深める取り組みが限られてしまいました。	今後は学校や関係機関との定期的な情報共有の機会を設け、より連携の取れた支援体制を整えていきます。また、保護者の皆様にご参加いただける見学の機会なども検討し、日頃の様子や支援内容を直接お伝えする場を設けていく方針です。ご意見を支援に反映しながら、共にお子様の成長を支えていけるよう努めます。
年間行事予定の回収ができていない点	今年度は4月の開所が無く、回収の機会がございませんでした。	それぞれの学校様の行事予定を把握することにより、送迎の調整や追加での利用のご案内ができる機会を増やせるように努めさせていただきます。 R8年4月の時点で各ご家庭に学校様の行事予定の共有を依頼させていただきます。 ご協力の程よろしくお願いいたします。